

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



ミルク粥

エッチング版 1861年

15.8×13cm(紙) DE L'ART M17

バルビゾン七星派 ・ 真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



作品名 ミルク粥 (1861年)

種類 エッチング版 DE L'ART M17

サイズ 15.8×13cm

※ミレーの版画は、油彩やパステルに比較すると数が少ないです
20点のエッチング、6点のリトグラフ、2点のガラス版画、
3点の木版画を制作しているにすぎません

略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1855 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

1861年のサロン展には《待つ人》(ネルソン＝アトキンズ美術館、カンザスシティ)、《羊の毛を刈る女》(美術館ギャルリ・ミレー、富山)と共に《ミルク粥》(マルセイユ美術館)が出品された。その後美術評論家フィリップ・ビュルティの依頼でこの銅版画が制作され、同年九月号の『ガゼット・デ・ボザール』に彼が寄稿した論文「J.F. ミレー氏の腐食銅版画」の挿絵として掲載された。熱い食べ物を吹き冷ましてやる母の仕草は幼子に対する愛情と親密さを十分に感じさせる。また明暗のコントラストの強さは作品を一層引き立てているとともにサロン展出品作の油彩画に勝るとも、劣らない。制作にあたり、腐食や刷りの段階でも職人の工房に赴いて最終調整を加えた逸話があり、画家のこの作品における明暗表現へのこだわりを伝えている。